

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 211 回 掟破り、中小企業診断士の虎の巻・公開！

2007.7.22

小生、中小企業診断士として実に 28 年間、数多くの企業を診てきた。その際「企業を見る目」のポイントがあること、ご存知だろうか。初めて訪問する企業であっても、その会社の体質、社長の考え方は、このポイントで観察すると、おおよそのことが、分かるものである。本来、中小企業診断士としての企業秘密、掟破りではあるが、今回その一部を公開してしまう。

訪問した時の会社の空気、第一印象は、ほとんどその通りである。暗い、八キ八キしてない、従業員が誰もお客を見ない、誰に向かって挨拶していいのかわからない、こんな印象を持つてしまう会社は、おそらくその通りの会社であること、間違いない。

受付嬢が極端に美人であった。美人だからダメとは言わない。美醜と能力の因果関係は何もない。しかしややもすれば、社長個人の趣味を反映し、他の従業員が正当な評価を受けていないケースもあり、その見極めのためには、要チェック事項である。

壁に貼ってある「経営理念」、「本年度目標」などは会社を読み取る貴重な資料。ISO を取得しているか否か、「4 つのテスト」が貼ってあればロータリアン。

社長室あるいは応接に通された。灰皿が置いてあるか、カレンダーはどこのものかによりそれなりの情報は把握できる。主要取引先、メインバンク、株をやっているか、保険会社との関係等々、いささか想像枠が広がっていく。

動物の剥製が置いてある、超一流画家の絵が飾られている、ゴルフのクラブが置いてある、コンペのトロフィーがあった、政治家・有名人とのショット写真・色紙が飾られている、表彰状・感謝状の誇示展示...こんな光景を見たらおそらく「ダメ社長」候補生であろう。

できればトイレを拝借する。トイレの清掃、机の周り、工場の清掃の徹底は、かなりその会社の従業員モラルを反映している。トイレが汚い会社はそれだけで不信感、不快感を与えてしまう。

やっと社長と面談できた。いかにもロレックスの時計、ピカピカのプレスレット、それとなくデスクに置いた車のキーはジャガー、それはそれでいいのだが、やはりチェック項目の一つである。各論の話が全くなく、総論オンリーは評論家社長、言葉だけはかっこいいが、信頼できない。情報に流され、主体性に欠ける、数字で語れない、この手のタイプは、往々にして問題解決を先送りにし、他人の責任に転嫁し、方向が定まらない。

帰り際、社長が蔓延の笑みを浮かべ「自伝」の本をプレゼントしてくれた。その会社がどういう軌跡を歩んできたか、過去を知ることは大切なこと。しかし、いかにも自慢話を伝えたいがための「自伝」は、誰が読んで面白くない。過去を語りたいという人は、未来に目を向けていない例え通り、これも要チェック項目としてインプットである。

さて、全てがこの通りとは限らない。もちろんそうでない場合も沢山ある。しかし今までの経験上、7～8割は、ほぼ当たっていた。そんな物差しをもって、中小企業診断士は今日も行く！...こんなかっこいいテレビドラマでもできないものか、もちろん主演は「飯島賢二」である。(視聴率、取れないかも.....残念)